

ナイアガラタイムス

2025年7月20日 第16号

人 カ 夢



目次

『心の安全基地をつくりたい』

こどもブックベース 鈴木まさ代さん	・・・ 2
39 年前の 9 か月	・・・ 5
シネマ 滝 ⑫ 「七つの会議」(2019 公開)	・・・ 6
名盤探検隊 ⑭ 大橋純子「テラ」(2007 年発売)	・・・ 7
美味しい話 ⑫ 「コロッケの事」	・・・ 7

『心の安全基地をつくりたい』

こどもブックベース 鈴木まさ代さん

今回は中央区富士見にある絵本専門店こどもブックベースの鈴木さんに取材させて頂いた。

去年の終わり頃、出会ったお店だが、とにかく落ち着く場所です。去年の終わり頃、出会ったお店だが、とにかく落ち着く場所です。去年の終わり頃、出会ったお店だが、とにかく落ち着く場所です。鈴木さんも本当に素敵な方です。



【お店を始めたきっかけ】

私には子供がいるんですけど、彼らがもう大人になって、自分がやりたいことをやろうって思いました。

それから私は学校図書館司書をしています、子どもと本に関わっているのがすごく好きだから、いつか学校で仕事ができなくなるっていうのがすごく辛かったです。なので子どもと本に関わっていただける場所を自分で作ってしまえと思いました。

もちろんお金も必要だし、それは自分が生活していくためだけだったら本屋なんてできないんですよ。これはもう私のわがまま、趣味としてはじめました。私には少し年上のいところがいたんですけど、仕事熱心な人だったのに突然亡くなったんですよ。能力があって、なんでもできる人でも、やりたいことがたくさんあっても、突然いなくなるということがあるんだって。とてもショックでした。この命があるうちにやりたいことがあるならやった方がいいと思いました。

【一番最初に出会った絵本、印象に残っている絵本は】

一番最初かどうかは分かりませんが、嬉しかったのは家のそばにたくさん本を積んだトラックみたいな移動図書館が来た時に「どれでも選んでいいよ」って言われたことです。「こねこのぴっち」という本があって、それを何度も何度も借りて楽しかった事です。楽しいだけの本じゃなくてすごく怖いところがありました。いろんな動物の真似をして自分以外の何者かになりたいんだけど、それがうまくいかなくて、夜になって今までおうちの中で寝てたのが動物の小屋で寝てみると、たくさんの生き物たちが森からやってきて狼や狐やふくろうが自分を狙ってくる。そのページがものすごく怖かったんです。でも目が離せなかったんですよね。

その本が1番印象に残っています。真っ先に店に置くのを決めたのも「ぴっち」でした。

【学校の図書室の仕事ってどんな仕事ですか？】

子供たちに本の貸し借りをしたり、あと学校では勉強する本もたくさんあるので、「好きなことを調べたいけど、どこにありますか」とか「スポーツの本を見たいけどどこにありますか」という質問に對

して案内をします。それから最近では、地球の環境のことを調べたいような時にはこの分類がいいよ、と案内をします。私が大切にしているのは新鮮な本棚にしておくこと。使えないような昔の資料とかはどかして、世界地図もだんだん昔からすると変わっている、だから最新の情報にしておく。お話の本もあんまり古くてボロボロだと手に取らないので、新しくてきれいな本に更新するっていうのがすごく大事だと思います。

学校の図書館で働けなかったら、今のお店にもつながってないし、すごくやって良かったと思います。

面接に行った時に四日間の面接の日程があって、そのうちの1日目に行ったら20人ぐらい人がいて、これは全部で80人ぐらい受けるのかと思ったら「これはもうだめだ。もう言いたいこと全部言ってやれ」と思って「本屋でアルバイトしていたこともあるので、なんでもできます！」と言いました。

それぐらい受からないと思っていたので、採用通知が来た時は飛び跳ねちゃいました。

【本屋でアルバイトしていた時の話】

若い頃会社員をしていたんですが、仕事が終わった後、夜、本屋でアルバイトをするようになりました。家の近くに小さな昔からやっている本屋さんがあって、そこでバイト募集の張り紙を見たんです。正直私の実家はお金持ちじゃなくてお金がギリギリだったので、会社以外に

ももう一つ仕事したいと思いました。

でも我慢するような事はしたくないので、好きな本の仕事をしました。

繁華街のそばの本屋さんだったので、酔っ払いがよく入ってくるんです。ちょっとそれは大変でした。いい加減に帰ってもらったり、頑張って強くなり



ましたね。

本屋の社長が元学校の先生で、身体を壊して学校はやめて本屋さん始めた人だったんですけど、すごく面白い人で、可愛がってもらいました。ご飯食べに連れてってもらったりしました。

【選書について】

選書している時って私にとっては1番楽しい時間です。旅行の準備をしているみたいな気持ちになります。もちろんお金には限りがあるので、その中で「どれを選んで、残念だけど今回これはやめよう」みたいな。

一番基準にしているのは、子供が読んで安心するものであって欲しい。失敗したりうまくいかないこともあったり、悲しいこともあっても、世界はこんなに面白くって、自分が受け入れられているって思って欲しい。その子供の安心というのがベースになり、それが崩されないものがないと思っています。

今、子供の本はたくさん売れているけど、他の本が売れない時代。なので子供の本にいろんな条件をつけて盛り込んで、どんどん子供をコントロールしていこうとしたり、奇をてらって、ただ面白おかしく、子供の生活をかき回すみたいな本が増えているようにも思うので、そういう本はどんなに売れていても入れません。

古臭いって思われても、ロングセラーの安心できる本。たとえば滝さんが選んでくださった「おつかい」や「どろんここぶた」のような安心のベースとして残るような本を選びたいって思っています。

【最後に】

本が手元にある生活。それを家族で楽しめたり、自分1人で静かに楽しめたりする生活の余白みたいなものがあれば、子供たちももう少し穏やかに成長できる。大人にもそういう時間はすごく大切だと思うので、絵本を読んでもほんの5分とか10分の時間だけでも自分と向き合えたり、何か違う世界に飛んでいけたりする余白の時間が作ってもらえたらなって思っています。



39年前の9か月

このナイアガラタイムスは誰かがヒマな時に、ペラペラと気軽に読んでこれ面白いこと書いてあるじゃんと思えるような読み物を作りたいと思っている。ある日、友人から自分の事を連載してみればと言われた。だが、自分の生い立ちを面白がって書けるのだろうか？いろいろな不安があるがとりあえず高校卒業してからの9か月のことを描いてみる。

ただ、今から39年も前の事だし、人間という生き物は勝手なもので、自分のいい様に記憶を書き換えているかもしれない。だからこれから書く事の何%かはフィクションだ。

なおこれから4人の方に登場してもらおうが、名前は仮名とします。



滝が育った家は二俣川（よく人から免許センターがあるところだよねと言われる）駅から坂道を登って下ってまた登って、とんでもない坂の上の団地の1階だった。自分の力だけでは家から外に一歩も出られなかった。だから自由に出かけたかった。

高校卒業してから厚木の神奈川リハビリテーションセンター七沢更生ホームという施設に入った。そこは130床の施設。脳卒中の方が一番多く、交通事故にあって治療を終えた人達が社会復帰するための施設で、ぼくたちCP（脳性マヒ）は2割ぐらいだった。

食堂の滝の前の席は浜田さんという2か月後に退所する人だった。最初は滝の食べているところを見て「僕はCPには慣れているから大丈夫だよ」と言われた。けれど自分よりはるかに障害は軽いけどどう見ても浜田さんもCP。何という事を言う人だろうと思った。

ある日、浜田さんに「何人かで食事に行くからお前もこないか」と言われた。この食事会は、ちょっと変わった送別会だった。今の厚木のイオン、当時のダックシティ厚木にある「赤い風船」というファミレス風な店。その月に退所する浜田さんともう一人平田さんと退職する女性の臨時職員2人の送別会。なにが変わっているかという浜田さんと平田さんが幹事だったという事。



要は浜田さんたちが最後に臨時職員の新井さんたちと食事に行きたかったという事だろう。仲の良い人達10人くらいだった。そんな身内の会に入ったらばかりの滝のことを誘ってくれた事が嬉しかった（多分、浜田さんが毎日、朝昼晩、目の前に座ってい

た滝のことを面白いヤツだと思ってくれたのだろう）。そこで食事をしていたら、ふと「このメンバーで旅行に行ってみよう」と思った。その想いは3か月後実現した。周りの人たちに協力してもらいながら、滝が幹事になって中伊豆に旅行に行ったのだ。そのパワフルな動きを見ていたのが送別会に出ていた新井さんだった。

その変わった送別会の二日前、大きな出来事があった。それは神奈川県庁での座り込みだ。その頃、食費だけを徴収されていたのだが、施設の使用料を徴収する制度に変わる時だった。金額はそんなに変わらないが、問題は徴収する範囲が親や配偶者にも及ぶということ。これではいつまでたっても障害者は一人前に見られないという事で全国的な運動になった。滝は、そんなに運動に対して興味がなかったのに、仲間達が行くし、久しぶりに横浜に行きたかった。ただそれだけの理由で七沢の労働組合の拡声器付きの車で神奈川県庁に行った。

この運動で七沢の労働組合と相模原の「脳性マヒ者が地域で生きる会」との繋がりができた。その「地域で生きる会」が神奈川県庁の試行事業の制度使い「シャローム」というケア付き住宅をオープンさせた。そこに見学に行くことになる（それも急に言われ訳も分からずに行ったのだが）。そこは親元や施設で暮らしてきた障害者が4人で共同生活をしながら、生活の組み立て方を身につけて地域での独り暮らしに繋げていくステップの場だ。



10月にシャロームに見学に行った。そこは出来たばかりで近くの福祉専門学校生徒がいっぱいた。入っている人達も地域生活を始めたばかり。とにかく活気に満ち溢れていた。その中に滝と同じ年に養護学校を卒業した河村さんという人がいた。実は河村さんは、県庁の座り込みで、新井さんに会い何回か食事をしに行き、その時に「七沢に大滝という面白い人がいる」と聞いていたらしい、それならばその大滝というやつと関わってみたいと思ってくれたみたいだ。

その12月には1週間、河村さんの部屋に体験入居した。そこから「生きる会」がやっていた町田駅前のカンパ活動を手伝ったり、若い当事者のサークルに入ったり、これはもうこのまま「生きる会」のメンバーになれると思っていた。

でも、ここからどんでん返しがあった。

「どんでん返し」なんていうと、この先が期待されるかもしれないが、ただおふくろと担当職員の言う事に逆らえず、実家近くにオープンする通所施設に通うことになっただけのと。

それよりも31歳の時、好きな女性ができ新潟まで追いかけていったが、1年位でふられたのに、6年も住んでいたこと。障がい者プロレスの事を書いてみたい。

それからこの間、書類の整理していたら、25歳の時に静岡で路線バスを使い動物園に行った時の記事が出てきた。読み直してみたら我ながら面白かった。

これはナイアガラにノーカットで載せたいと思った。

これからこの連載どうなるのか。

シネマ滝「七つの会議」（2019年2月公開）

前号で少し触れたこの作品。昨日改めて観た。やっぱり凄かった。通所先とケンカした2時間後にこの映画を観た滝は、すごくスッキリした。

最初に言っておきたいのは、この作品は素晴らしいから観た方がいいという事。

「ウチの会社は円満だ」と言える人なんているだろうか。この作品は会社の様々な問題を描いている。

ある大企業がパイプ椅子を扱っていた。パイプ椅子にはネジが必要。そのネジを最初は老舗の町工場「ネジ六」に委託していた。それを安価に済ませるためにベンチャー企業に委託する。けれどその強度は基準の半分。この椅子は新幹線にも飛行機にも使われていたのだからいつ大事故が起きてもおかしくない。それを追及していくのだ。

この作品はキャストも凄い。20年前はエリート社員だったが、今やぐうたら社員。けれどこの問題には立ち向かっていく八角（野村萬斎）、同期で営業部長の北川（香川照之）。他には橋爪功、北大路欣也。

エンドロールが始まるころ、弁護士役の役所広司から八角に「どうすれば日本の企業から隠ぺいがなくなるといいますか？あなたのお考えを聞かせてください」と言われ、「絶対に隠ぺいはなくならないと思う。ただガキのけんかみたいに、ちがう事はちがうと言い合える関係性があれば、少しは変わってくるかもしれない」と言っていた。

何故かこのセリフ滝には、やたら沁みた。



名盤探検隊 大橋純子「テラ」(2007年発売)



2023年秋に亡くなった彼女。

今、2014年のスタジオライブアルバム（これはツアーのメンバーをスタジオに集めて一発録り、ライブ感あるように作られている）「LIFE LIVE」を聴いている。パワフルなボーカルはやっぱりすごい。

「テラ」は彼女の故郷、北海道夕張市が経営破綻した時「今私が出来る事は歌う事」とチャリティーアルバムを制作した。北海道出身のアーティスト中島みゆき、松山千春、安全地帯、ドリカム、YUKIの楽曲をカバーしている。

この作品はシリーズ3まで制作されているが、その2枚目が発売去れされた頃、二俣川駅北口の小さなCDショップにそのポスターが貼ってあり、それを見ながら親父の見舞いに行った記憶がある。

作品の話に戻る。アルバムの最初（これがアナログ盤だったら針を落とした瞬間と言えるのだけど）中島みゆきの「時代」の歌い出しがアカペラではじまる。他にも松山千春の「大空と台地の中で」安全地帯「ワインレッドの心」、ドリカム「未来予想図Ⅱ」など圧倒的な歌唱力で包み込んでくれる。そんな1枚だ。

美味な話 コロッケの事

俺は毎日、白いメシと野菜とコロッケがあればそれでいい。本当にコロッケが好きだ。実家にいた頃おふくろに今晚なにがいい？と聞かれると、他には思い浮かばず「肉屋のロッケがいい」と言い、あきれられていた。

今一番好きなのは、セブンイレブンのレジ横に並んでいるコロッケ。それから100円ローソンのコロッケも美味しい。

実家の近くの商店街の中の「ホドジマ」という肉屋のコロッケもよく買ってきてもらった。話はだいぶ逸れるがその商店街の中華屋の餃子の味と仕事場の近くに十年前まであった中華屋の餃子の味が同じだった。これは同じ中華料理屋で修業していたに違いない。

これも仕事場の近くに28年位前ぐらいまであった「お肉屋さん」という精肉店、俺はこのクリームコロッケが大好きだった。同じシャロームに住んでいた彼女が「お店に電話がかかってきた時「はい、お肉屋さんです」っていうのかな」って笑っていた。

明日も映画を観に橋本に行くから、スパイシーなカレーコロッケを買ってこようかな。



編集後記

コロッケと白いメシがあればいいという滝だが、昨年の夏からの米騒動は一体なんなのだろう（30年前の時は前の年が記録的な冷夏だったからだと覚えているけれど）。それで、大臣が代わっただけでたった10日でスーパーに2000円の米が並んだ。ありがたい事ではあるが、これもやっぱりなんだろう。備蓄米がなくなったらどうなるんだろう。今年の新米は安く並ぶのだろうか。疑問だらけだ。

話は変わるが今回の取材からテープ起こしではなく、スマホのボイスメモでやってみました。これがすごい。喋っているだけなのに漢字もしっかり変換されて有難い。（今までの滝の労力は何だったんだ・・・）そういえばこの頃AIがすごいみたいだ。これから人間ができる事は人としての考え方で物事を判断していく事。

昨日観た映画の中のセリフ「とにかく書け」という言葉が何回もあびせられた。滝も書く時に「なににも浮かんでこなかったらどうしよう」と怖がらずとにかく書こうと思った。

今年も暑い夏になりそうです。どうかご自愛ください。



アーカイブ

発行所

〒252-2042神奈川県相模原市中央区横山 4-5-4-107

発行責任者 大滝英史

MAILnb060234-1625@tbk、t-com、ne、jp

☎042(755)9105

発行協力

社会福祉法人アトリエ 一から百まで堂

〒252-0235 神奈川県相模原市中央区相生 4-13-5



メールアドレス

感想などのメールはこちらまでお願いします

振込先 フク)アトリエ ゆうちょ銀行 店番号〇九八(098)

普通 1208349 記号番号 10960-12083491

読んでみて『面白い』と思ったら振り込みをお願いします。